

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が1,384例あり、本年の累積報告数は105,302例になりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は腹痛、水様性下痢、発熱です。本年の累積報告数は5例となりました。
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が2例(70歳代及び80歳代男性)ありました。本年の累積報告数は18例となりました。
- 梅毒の報告が5例(20歳代・40歳代・50歳代男性各1人及び20歳代女性2人)(第22週追加報告分含む)あり、感染経路はいずれも性的接触です。本年の累積報告数は50例となりました。
- 咽頭結膜熱(プール熱)の定点当たり報告数は0.72と先週(0.60)からやや増加しました。第21週以降連続して過去5年平均値を上回っています。行政区別では、伏見区(2.29)および右京区(1.60)が他行政区に比べて多く報告されています。

◆ 今週のトピックス:<梅毒>

京都市では、第24週に梅毒の報告が5例あり、年間累積報告数が50例になりました。6月末時点での累積報告数は過去10年同時期で最多となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

(性別、年齢、症状、感染地域^{*}、感染経路^{*}の順に掲載。ただし、結核は除く。)

- 二類:結核 5例(肺結核 2例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 103例(肺結核 47例, その他結核 26例, 潜在性結核感染者 30例)うち喀痰塗抹陽性 18例】
- 新型コロナウイルス感染症 1,384例【1月以降の累積報告数105,302例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 18例】
- 五類:梅毒 5例【1月以降の累積報告数 50例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ	0	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4. 81	207
	② RSウイルス感染症	0. 72	31
	② 咽頭結膜熱	0. 72	31
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 35	15
	⑤ 手足口病	0. 26	11
眼科	流行性角結膜炎	0	0

【次ページ以降の主な内容】

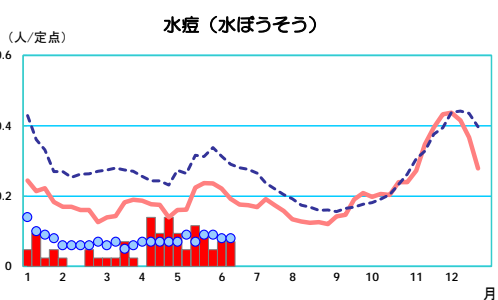
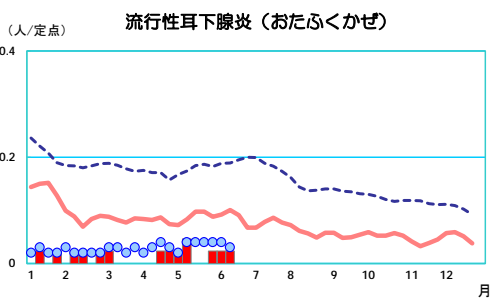
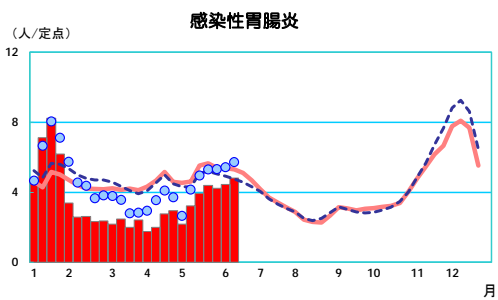
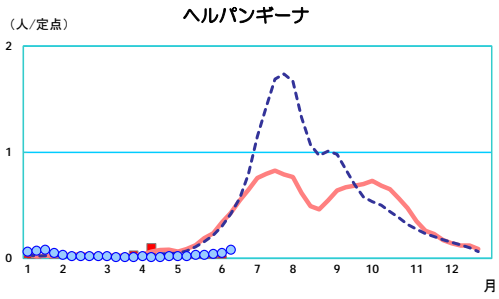
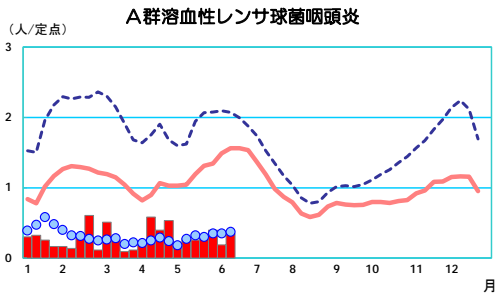
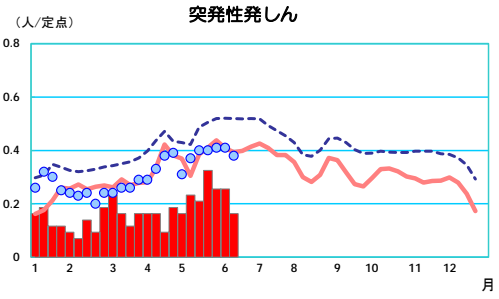
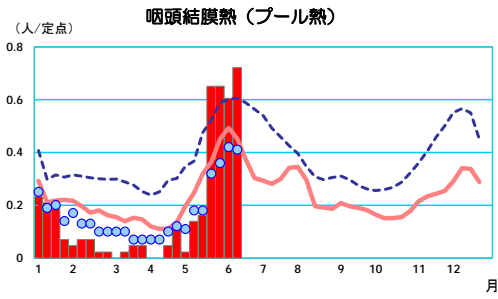
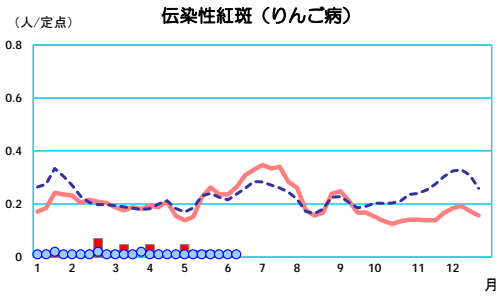
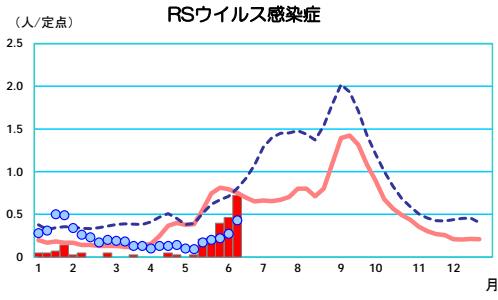
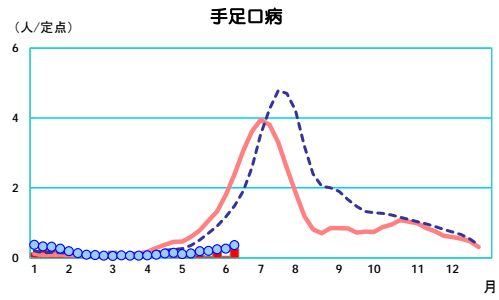
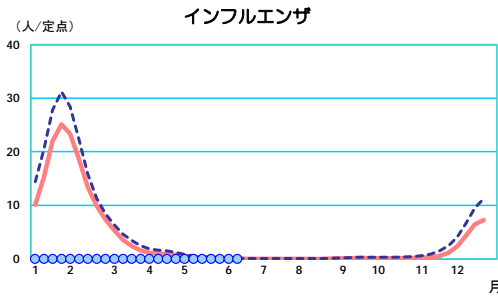
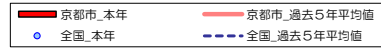
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス:<梅毒>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、2022年6月22日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

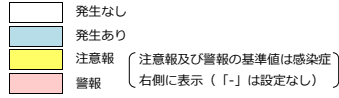
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

^{*}感染地域及び感染経路については推定を含みます。

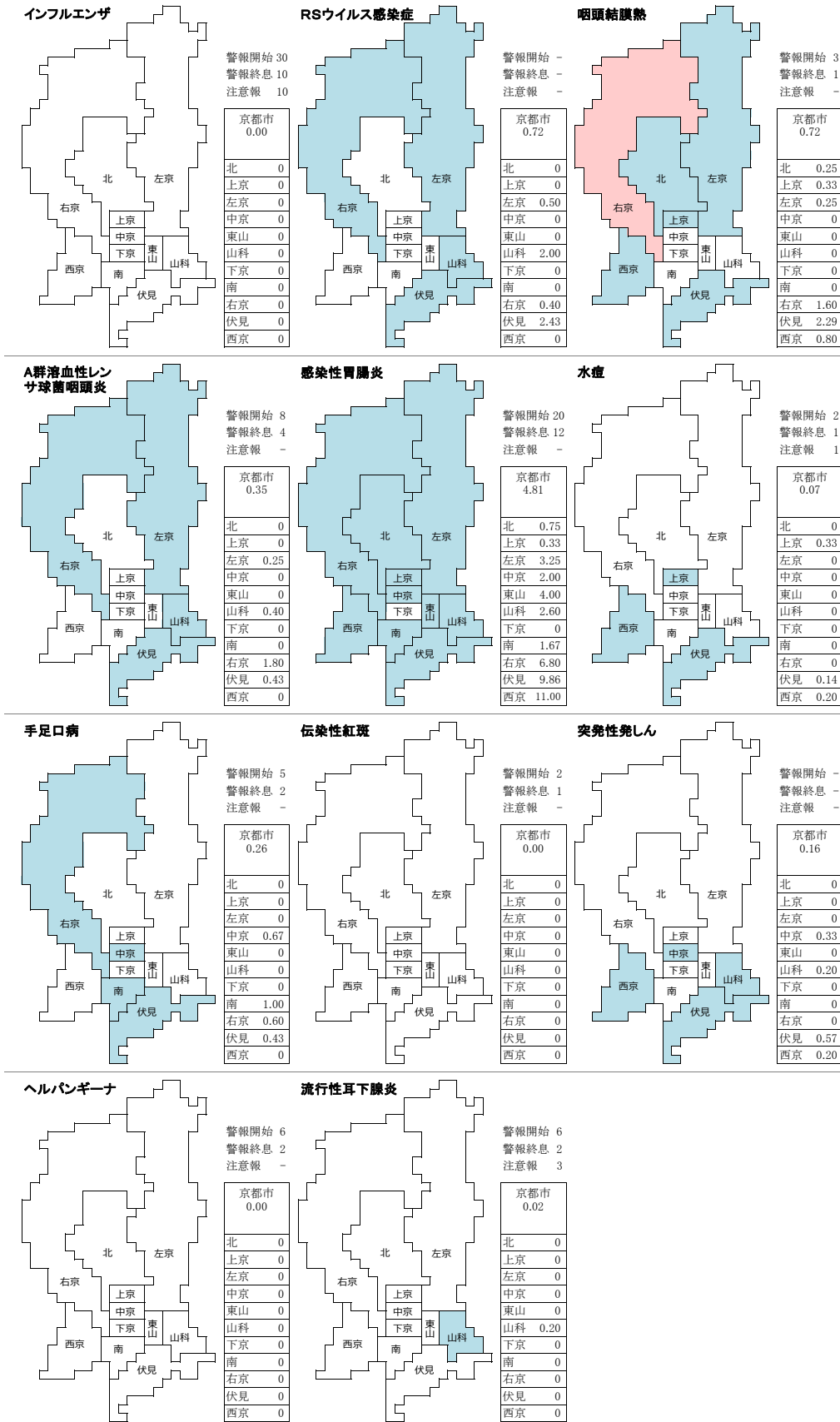
インフルエンザ[※]及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2022年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2022年第24週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や
 規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第24週(6月13日～6月19日)トピックス:<梅毒>

発生状況及び疾患

京都市では、第24週に梅毒の報告が5例あり、年間累積報告数が50例になりました。梅毒は近年増加しており、昨年の年間報告数は1999年の感染症法施行以降で最も多い78例(全国でも最多で7,978例)でした。6月末時点での累積報告数は過去10年同時期で最多となっています(図1)。

昨年の全国発生動向を性別及び年齢階級別で比較すると、性別では男性が約65%、女性が約35%でした。更に年齢階級では、男性は20歳未満を除く各年代がそれぞれ15～17%と同程度であるのに対し、女性は20代が約2割と突出して多く、全体に占める割合が最も大きくなっています(図2)。

梅毒は、感染症法の分類では5類の全数把握感染症に規定されており、同法第12条で「診断した医師は7日以内に届出を行わなければならない。」とされています。病原体は梅毒トレポネーマです。梅毒トレポネーマはらせん状の細菌で染色法や顕微鏡で観察できるものの、試験管内で培養できないため、病原性の機構はほとんど解明されていません。

感染経路と症状

感染経路は、感染者の病変部の体液や滲出液に含まれる病原菌が粘膜や皮膚の小さな傷から侵入して感染する接触感染です。主に性的接触により感染し、感染しても終生免疫は得られず、何度でも罹患します。

梅毒に罹ると、3～6週間程度の潜伏期の後に、感染部に無痛性の初期硬結や硬性下疳がみられます。その後数週間～数カ月間を経過すると原因菌が全身へ移行し、皮膚や粘膜に発疹がみられるようになります。これらの初期症状はいったん消失し無症状となりますが、治療せずに放置した場合は、感染後数年～数十年後に心血管や神経などに症状が現れ、晩期顕症梅毒を引き起こすことがあります。

また、妊婦が感染すると胎盤を通じて胎児に感染し、その結果として流産、死産あるいは先天梅毒を起こす可能性があります。先天梅毒では、生後まもなく皮膚病変、肝脾腫、骨軟骨炎などを認める早期先天梅毒と、乳幼児期は無症状でも学童期以降に症状が現れる晩期先天梅毒があります。母乳では通常感染しないとされています。

治療

治療にはペニシリン系抗菌薬が用いられます。通常は内服薬を2週間から12週間服用します。点滴静注による治療が選択される場合もあり、アレルギーなどでペニシリン系が使えない場合は、他の系統の抗菌薬を用います。

検査等について

梅毒の報告数は医療機関を受診した患者に限られますので、自覚症状が少ない等で治療を受けておらず、他の人の感染源となる可能性のある人を含めると感染者数は更に多いと推測されます。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下での受診抑制(ドクターズディレイ)も考えられ、今後更なる報告の増加や診断時の重症化の可能性があり、梅毒の発生動向に十分注意する必要があります。

京都市では、HIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を無料・匿名(予約制)で実施しています。感染の機会や恐れがある場合には、COVID-19流行時であっても、これらの検査を受ける、あるいは泌尿器科・婦人科・皮膚科等の医療機関を受診しましょう。

- 京都市広報「梅毒」の報告数が急増しています！

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000214471.html>

- 京都市のHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査については、下記のホームページをご覧ください。

○京都市情報館「京都市のHIV検査について」

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>

図1 京都市の月次累積報告数(2012年～2022年6月)

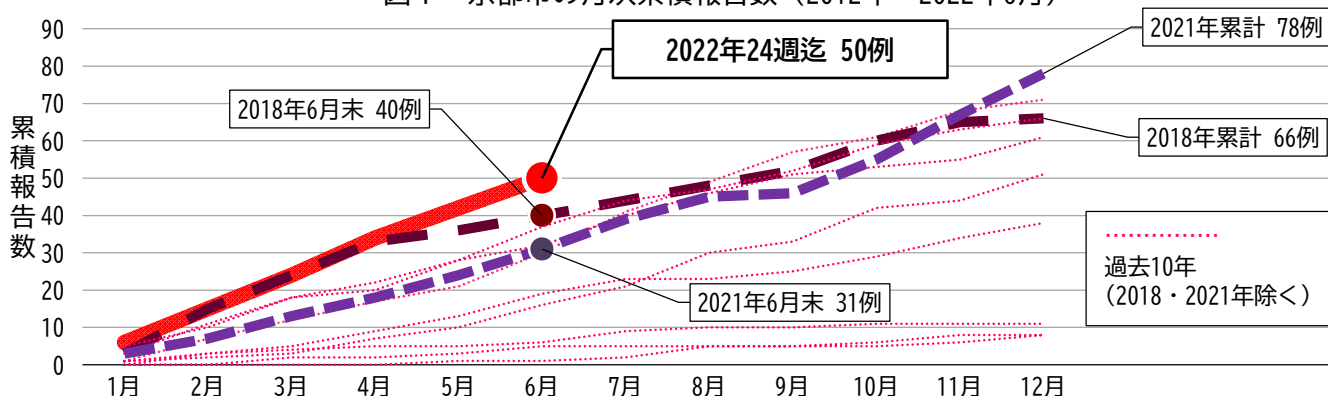
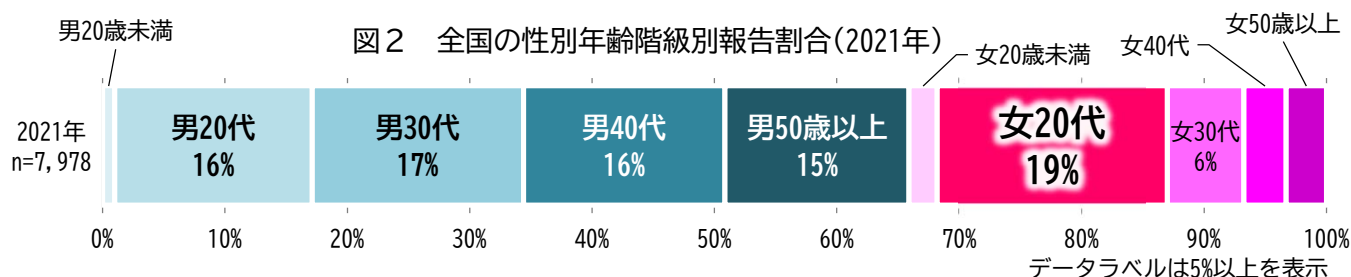


図2 全国の性別年齢階級別報告割合(2021年)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第24週

疾病,行政区別報告数

2022年6月13日～2022年6月19日

データ入手日:2022年6月22日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	2	1	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	6	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	10	-	2	13	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	2	8	9	34	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	17	16	3	69	1	3	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	4	-	55	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	31	31	15	207	3	11	-	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	-	0.25	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	-	0.25	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	0.33	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	0.50	0.25	0.25	3.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	2.00	-	0.67	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	2.00	-	0.40	2.60	-	-	-	0.20	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	-	1.67	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	0.40	1.60	1.80	6.80	-	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伏見	-	2.43	2.29	0.43	9.86	0.14	0.43	-	0.57	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	0.80	-	11.00	0.20	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	0.72	0.72	0.35	4.81	0.07	0.26	-	0.16	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第24週

年齢階級, 疾病別報告数

2022年6月13日～2022年6月19日

データ入手日:2022年6月22日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	31	1	8	8	9	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		31	-	6	10	9	3	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		15	-	1	2	2	1	1	3	-	-	-	1	2	-	2	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		207	-	19	44	25	22	19	13	10	5	9	3	19	4	15	-	-	-	-	-	-	
水痘		3	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		11	-	2	3	1	2	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		7	-	-	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	0.72	0.02	0.19	0.19	0.21	0.09	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.72	-	0.14	0.23	0.21	0.07	0.05	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.35	-	0.02	0.05	0.05	0.02	0.02	0.07	-	-	-	0.02	0.05	-	0.05	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		4.81	-	0.44	1.02	0.58	0.51	0.44	0.30	0.23	0.12	0.21	0.07	0.44	0.09	0.35	-	-	-	-	-	-	
水痘		0.07	-	-	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病		0.26	-	0.05	0.07	0.02	0.05	-	-	-	0.02	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		0.16	-	-	0.14	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第24週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2022年6月22日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	1	9	10	17	20	31
咽頭結膜熱	6	7	28	28	26	31
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	11	12	17	8	15
感染性胃腸炎	139	169	189	182	191	207
水痘	2	5	4	2	3	3
手足口病	1	3	2	8	2	11
伝染性紅斑	1	1	1	-	-	-
突発性発しん	10	9	14	11	11	7
ヘルパンギーナ	-	1	1	1	1	-
流行性耳下腺炎	2	-	-	1	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	1	1	2	-	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	175	216	262	269	263	306

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	0.02	0.21	0.23	0.40	0.47	0.72
咽頭結膜熱	0.14	0.16	0.65	0.65	0.60	0.72
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.28	0.26	0.28	0.40	0.19	0.35
感染性胃腸炎	3.23	3.93	4.40	4.23	4.44	4.81
水痘	0.05	0.12	0.09	0.05	0.07	0.07
手足口病	0.02	0.07	0.05	0.19	0.05	0.26
伝染性紅斑	0.02	0.02	0.02	-	-	-
突発性発しん	0.23	0.21	0.33	0.26	0.26	0.16
ヘルパンギーナ	-	0.02	0.02	0.02	0.02	-
流行性耳下腺炎	0.05	-	-	0.02	0.02	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.10	0.10	0.20	-	-
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	4.15	5.10	6.17	6.41	6.12	7.12

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。